

第 129 回河川塾感想

- ・ 琵琶湖ツアーを！今夏か？県内に対岸のある大きな広い遠い滋賀県。
- ・ 環境現象が毎年激変、それもコロコロで、収斂していく先の見えない変化が一番気持ち悪い。この大きな琵琶湖で。しかしと言う事は、琵琶湖、大きいけれど繊細で感受性が高いと言う事なのかもしれない。
- ・ 自然と人間の共生と言うのは、人間関与が前提で、毎年毎日の微妙はともかく、激変のない状態を維持していくと言う事なのかもしれない。知性とマナーで。40~50 年位前までは、人間知ってか、頭知らずか、その状態を維持していた時代。里山・田圃はその典型である。
- ・ 西河君発言の「琵琶湖周りから人間を一切排除してみたら、琵琶湖はどんな環境になるのか？」この壮大な実験を必要とする時代が、人間にとって必要になるかもしれない。シュミレーションではなく。
- ・ 人間、本人個人の意思とは関係なく、生態系と経済からは逃れられない。組み込まれているのだ。
- ・ フォーラムと言う進行管理のシステム・制度の難しさ。直接民主主義的制度。
- ・ 山、里、川・湖、暮らしの課題の四区分。「暮らし」表現は誤解を生じる。山、里、川・この三区分のそれぞれにも人間の暮らしはある。むしろ「消費の場」とするほうがわかりやすい。
- ・ 除染は必要、ガレキ処理と一緒に。汚染のエントロピー的拡散を考えると、ガレキも汚染の局所集中にしておいて、その国土を「死地」としてしまうのが自然科学的であるかもしれないが、そうなるとそこは国土と呼べないのではないか？棄民ならぬ棄国ではないか？人間は自然科学で生きているのではない。
- ・ アルジェリアに行ってる場合ではない。アルジェリア、ガス施設でアルカイダに人質にとられた日本人、7~10 人殺害される。勿論個人的には、気の毒を禁じ得ないが、阿部首相の言うように、真っ白と真っ黒の善悪二つ区分の構造か？軍を持ち、人殺し戦争厭わずの思考で、テロ殺人を批難できるのか？国内の原発すら解決できないのに、他国の資源に手を出しに行ってる場合か？

平成 25 年 3 月

近畿水の塾 福廣勝介